

---

## 特集 1 : なぜアレルギー疾患は増加しているのか？

---

### 【巻頭言】

中村 克彦 (徳島大学医学部感覚情報医学講座耳鼻咽喉科学分野)  
近藤 彰 (徳島県医師会)

アレルギー性鼻炎, アトピー性皮膚炎, 喘息などのアレルギー疾患は, 1970年以降急激な増加を示し, 平成3年度に当時の厚生省が行なった調査によると, なんらかのアレルギー疾患に罹患したことがあるものは, 一般人口の約3分の1を占めるとされ, いまや国民病の様相を呈している。

アレルギー疾患の増加の原因は単一ではなく, 高蛋白・高栄養な食生活(栄養因子)や, 大気汚染や花粉産生能の高い植物の増加(環境因子), 寄生虫疾患や慢性副鼻腔炎などの感染症の減少, 社会的ストレスの増加など多くの要因が関与していると考えられている。

そこで, 本特集では, なぜアレルギー疾患が増加しているのかをテーマとし, 栄養学の立場からは, 栄養と免疫反応に関する最新の研究を紹介していただいた。免疫学の立場からは, アレルギー疾患の増加の原因となる抗原特異的IgEの増加に関する最新の知見を紹介していただいた。

また, 代表的アレルギー疾患である, アレルギー性鼻炎, アトピー性皮膚炎, 喘息については, 臨床の各分野で, アレルギー疾患を研究・臨床のメインテーマとして活躍されている先生

方をお願いしてそれぞれの疾患が増加している原因を説明していただいた。

近年, アレルギー疾患の発症メカニズムの解明も急速に進歩しており, たとえば以前は, I型(即時型)アレルギーと呼ばれていたアレルギー性鼻炎や喘息において, 遅延相が存在し, 実は遅延相が症状の発現に重要な役割をはたしていることが判明している。このように, アレルギー発症のメカニズムが判明するにつれて, 新しい治療方法が次々と開発されている。このことはアレルギー疾患の治療の選択肢が広がったことを意味するが, 同時に, 疾患の病態や程度に応じて適切な治療方法を選択する必要にせまられることになった。本特集では, アレルギーの発症メカニズムに関する最新の知見とともに, 適切な治療方法の選択についてもあわせて説明していただいた。

本特集の講師となられた先生方の発表には, アレルギー疾患のメカニズムを理解し, アレルギー診療の実践に役立つ重要な情報がちりばめられている。発表の内容を四国医学雑誌に掲載することで, 多くの先生方に広くお伝えすることができ幸いである。